

自転車事故の怖さ スタントマン再現

青谷高で交通安全教室

鳥取市青谷町青谷の青谷高で13日、スタントマンが自転車事故を再現する交通安全教室があった。1、2年生79人が参加し、ルールを守ることで事故は防げることを学んだ。

自転車交通事故の怖さや交通ルールの大切さを学んでもらおうと、JA鳥取いなばとJA共済連鳥取が鳥取県警と連携して開いた。同校体育館で、スタントマンらが自転車の一時停止無視による歩行者との出会い頭の事故や、交差点での安全確認不足による自転車

同士の衝突事故を再現。ぶつかった衝撃で歩行者や自転車が跳ね飛ばされると、生徒らの間からどよめきが起きた。1年生の佐々木雪華さん(16)は「自分が事故に遭ったらと思うと怖い。ルールを守って自分の命を守りたい」と話した。

鳥取県警によると、過去10年間の自転車事故の25%が通勤通学時間の午前8時～9時と午後4～5時に起きている。交通安全課の村上雄一郎警部補は「4月からヘルメットの着用が努力義務になる。ヘルメットを着けて安全運転を」と呼びかけた。

(安井桃華)



自転車による衝突事故の危険性を再現するスタントマン。13日、鳥取市青谷町青谷の青谷高